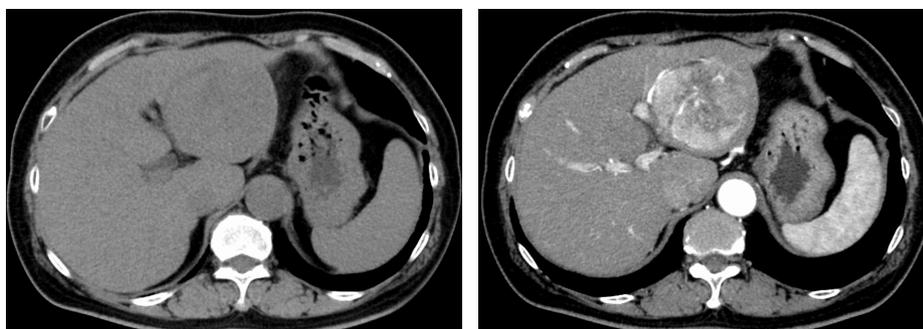


造影 CT/MRI 検査の利点と注意点

利点

造影 CT/MRI 検査では、CT でヨード造影剤、MRI でガドリニウム造影剤を使用します。これらの造影剤は点滴を通して静脈に注入され（注 1）、体内を循環させた状態で撮影します。単純撮影では区別がつかない病変も、造影剤を使用することで明確に描出され、より正確な診断が可能となります（下図）。造影剤が血管内に多く存在するタイミングで撮影することで、血管の走行がより鮮明にわかります。さらに、3D 画像を作成することで、骨や血管の位置などを立体的に観察・診断することができます。



同部位の単純 CT（左）と造影 CT（右）：肝腫瘍がはっきり描出されています

注意点

お申込みにあたってはまず以下の項目を確認してください（注 2）。

妊娠の有無（注 3：単純/造影 CT、造影 MRI）

妊娠の可能性を含め、ないことを確認。

クレアチニン値（注 4：造影 CT/MRI）

中等度以上の血清クレアチニン値上昇では禁忌です。eGFR > 45 が目安です。

服薬（注 5：造影 CT のみ）

ビグアナイド系糖尿病薬内服中の方は、検査前後 48 時間の休薬していただくよう案内してください。

また以下の方はリスクが高くなりますので適応を慎重にご考慮ください（造影 CT/MRI）。

- 過去に造影剤を使用して気分が悪くなったり、じんましんが出たことがある方
- 喘息がある方、または過去に喘息にかかったことがある方
- アレルギー体質の方
- 重度の肝臓疾患、腎臓疾患のある方

注 1)

撮影時に静脈確保困難な方は単純 CT/MRI に変更する場合があります。

注 2)

低率ではありますが、造影剤使用によりアナフィラキシー等の副作用が起こることが知られています。検査当日に当院でも再度説明、確認し造影剤使用の同意書を記載していただきます

注 3)

単純 MRI に関しては妊娠中にも撮影可能です。授乳中の方は検査後 24～48 時間授乳を中止してください。

注 4)

当院受診時に腎機能的に造影困難と判断した場合は単純撮影のみに変更させていただきます。

注 5)

ビグアナイド系糖尿病薬を服用中にヨード系造影剤を使用する CT 検査では、乳酸アシドーシスのリスクがあるため注意が必要です。当院では副作用防止のため、ビグアナイド系糖尿病薬を服用中の方には検査前後 48 時間の休薬をお願いしています。中止が難しい場合は、該当する診療科に相談してください。